

教職員・学生の期待に応え、2016春闘をともに前進させましょう

東海私大教連第46回大会にご参集の組合員のみなさま
日本私大教連を代表して、ご挨拶を申し上げます。

昨年、国民諸階層に拡大した安保関連法案反対の戦いは、2016年に引き継がれ、戦後70年の平和を取り戻すのか、戦争できる国へ憲法改悪にまで踏み込むのか、という事態を迎えています。戦争は、大学で働くものにとって切実な問題です。貧しい若者から戦争に駆り出されます。労働組合の活動も制限されます。こうした立場から、春闘のなかでも、おおいに平和をアピールしていきましょう。

私たち私立大学の教育、研究、労働の環境は、年々悪化しています。安倍政権は、私立大学をまるで高等教育機関として認めていないかのように、私大助成を減額してきました。国立大学に比して、学生ひとりあたりの助成額は13分の1にすぎないのに、国立大学のように「メリハリをつける」といって、わずかな一般補助まで競争にさらしています。

許せないのは、私大学生に対する学費減免事業の貧しさです。国立大学では、学生の9.7%に対して、一人あたり授業料に相当する54万円の減免予算がついているのに対し、私大では学生のわずか2.0%で、一人あたり19万円の予算しかないことです。授業料は、平均で国立大の1.6倍であるにもかかわらず、です。

私大教連は、長い間、私大助成運動に取り組んできました。このことは、父母、学生に対して、誇っていいと思います。

いよいよ2016年春闘が始まります。みなさん、準備は十分ですか？アベノミクスで低下する勤労所得、深刻化する消費不況のなか、ベースアップ要求をはじめ、職場の切実な要求を組み上げて、力強く春闘に取り組みましょう。

春といえば、新しい仲間を迎える季節です。桜舞うなか、楽しく旺盛に仲間を増やしましょう。

日本私大教連中央執行委員会は、常日頃、東海私大教連が組合員の利益と権利を敢然と守っていることや心温かい活動を行っていることに敬意を払うとともに、2016春闘をともに闘い抜くことをお誓いして、連帯の挨拶とさせていただきます。

2016年3月12日

日本私大教連中央執行委員長

野中 郁江